

-
- の勇者」の物語も実際に活用されたのは昭和14年～15年の2年間だけであった。
- ・1936年（昭和11年）少年団は解散させられ、大日本青少年団に統合される。解散当時のスカウト人口は16万人。
 - ・1938年（昭和13年）第1回ウルフカブ指導者会議がギルウェルにて開催された。日本からは古田誠一郎が参加した。
 - ・1946年（昭和21年）ボーイスカウト日本連盟が再建される。
 - ・1946年（昭和21年）各地で指導者講習会が開かれる。
 - ・1948年（昭和23年）指導者実修所が開設される。
 - ・1951年（昭和26年）カブの再組織時代が始まる。
※アメリカ式のカブスカウトを採用することになった。運営や方法はアメリカ式を採用したが、訓育のテーマは金太郎を中心とした「足柄山物語」を創作した。
 - ・1953年（昭和28年）山中野営場で特修実修所を開設する。5泊6日で幕営と舎営を併用し、食事は給食とし、セレモニーは「しっかりやれ、やれ、やーります」を用いた。
 - ・1955年（昭和30年）カブ指導者中央実修所が開かれる。
所長中村知、隊長井上茂、カブコールや「デンデンデン」を用いた。
 - ・1959年（昭和34年）隊組織から団組織になった。
規約の上では年少隊、年少スカウト（略称としてカブ隊、カブスカウト）となり、学年進級になった。
 - ・1960年（昭和35年）カブブックが3分冊になった。
日本ギルウェル実修所ウルフカブコース第1期が開設された。
所長（アケーラ）古田誠一郎
…その後、昭和40年代半ばより50年代前半まで、カブスカウトの加盟員が急激に増加し、団の新設や分封も大幅に増加した。…
 - ・1989年（平成元年）日本連盟カブスカウト特別委員会により、全国30会場においてカブスカウト活動・制度移行に関する説明会が行われた。
 - ・1990年（平成2年）カブスカウト部門の新規定が実施され、従来の金矢章、銀矢章はチャレンジ章に代わった。ステップ章、クリアー章、上進章も新設され、タスキの着用も認められることになった。
※カブスカウトのユニフォームも改正され、平成3年春より平成5年春の2カ年間で移行された。
 - ・1996年（平成8年）カブ隊に女子の入隊が認められるようになった。
-